

# おお大勝利

平成 30 年度山東サッカー一部報第 14 号 (11 月 28 日)

サッカー部保護者の皆様、OB・OGの皆様、日頃より本校サッカー部の活動にご理解とご協力を賜りまして、感謝申し上げます。

## 1年生大会 久々の1勝

11月23日(金)～25日(日)村山地区の1年生大会がありました。この大会、高体連のチームだけでなく、モンテユースも出場するし、一つの高校から複数チームエントリーできる。緩いレギュレーション。ただし、**出場選手の意識は決して緩くはなく、毎年こちらがビックリするくらい、選手・保護者とも気合が入る。**やはり「同じ代には負けられない」という意識が働くためか、「どうせ上位大会もないんだから」と気楽でいるスタッフが当惑するくらい、選手は頑張る。

**山東は、平成 25 年度タイチの代で勝利して以来、初戦全敗を続けている。**26 年度ユートの代や 27 年度ハレルの代は、後々考えれば、初戦敗退は「やらかした」と思うが、当時は、順当そのものに思えた。まあ、それくらい、その後伸びてくれたということだが、25 年度は、9 人しかいない中、初戦に山南を撃破。二回戦モンテユースと当たり、ムンタリの衝撃の一発で先制するも、その後逆転され、1-2 で敗れた。山東はあの年以来勝てていない。あの年の 1 年生大会は盛り上がったな～。28 年度、29 年度は明らかに戦力不足、特に昨年度 (29 年度) は人数も少なく、厳しかった。しかし**今年、1 年生が 17 人入部し、久々に戦力、というか人数は充実したので、正直狙っていましたが、1 勝。**もちろん 2 勝・・・も狙いたいですが、まずは 1 勝ですよ。

山東初戦 (24 日) の相手は、23 日に山形明正 B を退けた**東海大山形 B**。B でも、強豪校の B だけに、もちろん侮れない。会場は山形中央 G。今年の Y2A でコーダイさんのスーパーヘディングシュートが決まった会場。公式戦ではないが、**清野総監督**、同期の**工藤先輩**、**後藤報道局長**という「いつものお三方」がいつも通りいらっしやる。ここ最近試合がなかったためか、楽しみに会場に来た、という感じ。ぜひ楽しませたいところ。また、**山形県サッカー協会副会長にして山東サッカー後援会会長の岸さん**もいらっしやった。たまには良いところもお見せしたい。

先発は、ヒ○マ○の狡さを多少は見習うべき **GK カザマ**、山東一年の Mr. ポリバレント **右 SB ヒナタ**、山東の元得点源 **CB ヤグチ**、柔らかいボールタッチと緩い守備 **CB エグチ**、攻守に点に絡む **左 SB コーダイ**、止まらなかつたら速い **右 SH コヤ**、「サッカー > 勉強」はオサ譲り **CH ユッキー**、さりげなくファール **CH ユースケ**、ケガのデパート **左 SH ナカノ**、曲者だがプレーは一直線 **FW ヒラマサ**、山東のヒマラヤ山脈 **FW ハク**、以上 11 名。交代選手はこれから紹介するとして、出場できなかつた応援部員は、大会直前に山東サッカー部入部後二度目の左手骨折アンラッキー **ウエマツ** と、写真部に転部したインスタフォロワー 1500 人 **カマーチョ**。ウエマツは部員としてベンチ内で応援、カマーチョは退部者として 2 年生と一緒に「バックスタンド側」で応援。

試合が始まると、「いつも通り、はっきりしないプレーが続いてるな～」と思った矢先、

止まらなかつたら速いコヤが中途半端に止まったと思ったら、バックパス際を奪われ、そのまま相手に独走され、GKの足元脇を冷静に抜かれ、開始数分で失点。質の高いサッカーを期待してはいなかったが、目を覆うばかりの低レベルプレーで、ビハインド。「こりゃ大変な試合になるな〜」と悪い予感マックス。だが、その後、ヤグチやコーダイ、ユッキー、ヒラマサなど、2年生の試合に出ていた選手を中心に力強い縦への推進力が目立ち、五分五分の試合展開に持ち込む。ハクやナカノら、故障続きで大会直前によく間に合わせた選手も、張り切ってプレーできている。**ハク、コーダイ、ヤグチの180cmオーバートリオ**が迫るFK、CKには得点の可能性を感じるも、そのままのスコアで前半0-1。

後半は、選手を逐次交代出場させ、全員を出場させる作戦。一年生への指示にのみ力強さあり**右SBモリヤ**、プレーでも相手を茶化してもらいたい**左SHワタル**、サッカーの分析眼には定評あります**CBクニワケ親方**、そして純朴青年とはまさに君のこと朝日町の星**右SHジュン**を、逐次投入。もちろん、交代選手へ用紙を差し出すのは、部活のため勉強との両立頑張ります**マネージャーユミ**。後半は、山東の方が押し気味に進めたと言えるのではないかな。もちろん、勝っている東海に守り切ろうという意識が働いたのだろう。ともかく山東、ディフェンスにおいて前へ前へとアプローチして相手のミスを誘う。**選手権後の練習の成果が出ている**。ただ、ワンタッチでシュートを打てない、またはトラップ後すぐ打てない、というスキルの低さにより、相手ゴール前に行っても有効なシュートが打てない。「迫りはするが、そのまま負けか」の雰囲気漂い始めた後半残り僅かのところ、相手PA内でワタルの保持するボールを**東海の選手が力強くかつ正当に奪う**。すると、体弱すぎで、相手のコンタクトに飛ぶように倒れたワタルに、**主審PKを与える**。ん〜、山東としては喜びましたが、東海の選手には可哀そうすぎる判定。**自分たちが逆の立場にも今後なる、そのときに東海のように「それもサッカー」と言える成長を山東は目指さなければならない**。ただし、山東が同点にしようと相手ゴール前に迫り続けていたからPKが得られた、とは言える。ともかく、**そのPKを決め、同点**。そして程なく試合終了となり、**PK合戦**。この部報でたびたび書いてきましたが、最近の山東、相手にPKを連続して決められている。恐らく20発くらい、連続して決められている。そろそろGKはPK止めてほしい、少なくとも相手は枠を外すのではないかな。そんな期待で眺めると、カザマが止めることはなかったが、辛くも山東の勝利。**1年生大会で久々の勝利、そしてPK合戦で久々の勝利**となりました。

次の試合は、試合終了後1時間後に**山形中央**戦キックオフ。試合は予想の通り押し込まれる時間は続くも、山形中央、いつでも得点できるという余裕からか、ぐいぐい来ない。初戦の山形商業戦では自在の攻撃力を誇ったが、作戦ではなく弱くて自陣ゴール前にくぎ付けになる「自然リトリート」の山東を、山形中央、攻めあぐむ。前半スコアレス。

後半は、時間とともに本格的に危ないシーンが多くなる。しかし、山東が体を張ったのと、山形中央が外してしまうのとで、事無きを得る。「これはまさか、2連続PK合戦、しかも山形中央を破るジャイアントキリングか」と期待は高まる。案の定、PK合戦入り。しかし、山東の運もここまで。**0-0のPK合戦負けで、2回戦敗退**。その後、翌日の準決勝・決勝を勝ち抜き、山形中央が優勝したそうです。スコア的に最もチャンピオンを苦しめたのは・・・などとは皆迄は言わないでおきますが、今年の一年生、全員の力でよく頑張ってくれました。

これで、今年の試合、本格的に終了。**OBOGの皆様、保護者の皆様、今年一年の応援、ありがとうございました**。来年は、少しでもサッカーの質を上げるべく、冬場のトレーニングに励みます。